

第450回鉄鋼流通問題懇談会議事録

日 時 2019年10月23日(月) 14時30分より
場 所 茅場町「鉄鋼会館4階」日本鉄鋼連盟・第1会議室
出 席 者 経済産業省 篠原課長補佐 岸 谷内
橋本会長(JFE スチール)

全国鉄鋼販売業連合会

会 長 阪上(清和鋼業)
常任理事 井上(明治鋼業)
森下(ダイサン) 澁井(澁井鋼材店)
一日役員 竹田(竹田商会)
メーカー 森安・南浦(JFE)
商 社 島津(伊藤忠丸紅鉄鋼) 菅根(メタルワン) 笹本(岡谷鋼機) 関(住友商事グローバルメタルズ) 廣崎(JFE商事) 間瀬(阪和興業) 南(兼松トレーディング) 松浦(日鉄住金物産) 大岩(エムエム建材)
事務局 五藤、内海

議 題 1. 全鉄連流通動態調査報告
2. 全鉄連情勢報告、地区別概況報告、阪上会長総括
3. 意見交換および商社品種別報告、メーカー報告
4. 経済産業省挨拶
5. 会長挨拶

配 付 資 料 (1) 全鉄連流通動態調査結果表(2019年9月分)
(2) 各地区業況アンケート7月調査結果
(3) 品種別報告、メーカー報告
(4) 鉄鋼需給推移表(2019年8月確報)
(5) 普通鋼鋼材主要品種別生産推移表(2019年8月確報)
(6) 全国市中鋼材数量調査(2019年6月)

経 過

1. 流通動態調査報告

事務局より、配付資料に基づき、9月分の全鉄連流通動態調査結果について報告があった。別紙、流通動態調査結果(2019年9月分)参照。

2. 全鉄連情勢報告

常任理事・理事より各地区の情勢報告、全鉄連事務局よりその他地区情勢報告があり、阪上会長が総括した。各地区の情勢報告は別添参照。

阪上会長総括

各地区の報告を受け、阪上会長が以下のとおり総括した。

全鉄連流通動態調査結果において、9月販売量は今年に入り前年を初めて上回ったが四半期ごとに見てみると前年同期比マイナスが続いている。建設関係は需要があるという話だが、昨年良かった分、これから10～12月も前年同期比でマイナスになるのではと予想される。戸建ての基礎工事で使用される鉄筋の加工量が落ちだしている。今年前半、堅調だった製造業関係にも陰りを見せている。大阪地区の薄板コイルセンターにおける自社のプロパー販売量は減少、受託加工量は増加、トータルでは増えているという流れが、8月、9月の統計数字をみる

と受託加工量が2ヶ月連続で前年割れとなっている。全般的な需要は減少傾向にあり、特に建機や産機、工作機械メーカーなど製造業の落ち込みが大きい。実需が振るわない中、原料が下がれば製品価格も下がったが、製販とも乱暴な売り方は少なくなり、販売価格を大事にするようになった

3. 意見交換

①商社・品種別概況報告

鋼管・伊藤忠丸紅鉄鋼（島津 鋼管部鋼管第二課課長代行）、薄板・岡谷鋼機（笹本 鉄鋼第一部鋼板室プロジェクトリーダー）、厚板・JFE商事（廣崎 東部鉄鋼本部厚板部厚板室）、棒鋼・形鋼・兼松トレーディング（南営業第二部部長代理）資料を参照。

②メーカー報告

高炉（JFEスチール・南浦営業総括室課長）より、最近の景況感などについて報告が行われた。報告内容は別添「メーカー報告」を参照。

4. 経済産業省挨拶（篠原課長補佐）

この厳しい需要環境が日本経済全体に広がるのを防ぐために政府官僚をはじめとしてマクロ経済の上、財政面で対応していかなければならなくなるのではないかと。供給面については、台風の影響で一部メーカーの設備被害をうけており、サプライチェーンの影響などを回避すべく情報を伺いながら行政としても対応していきたい。さまざまな需給面を左右する物流の関係、働き方改革の生産性の向上対策、需給の関係が厳しい中での政策がスムーズにいかない面もある。皆さまから頂いた意見を参考に行政としての取り組みを考えて政策を実施していきたい。

5. 橋本会長挨拶

足元の需要動向について実態経済は弱含んでいないが、心理的要素から先行きが見通しづらく、需要家は当用買いの流れを強めている。米中貿易摩擦を端緒とする中国の自動車産業不振に伴い、国内部品メーカーの輸出も減少している。9月の段階で一部の製造業で下方修正するなど、各社とも下期の見通しを持ちづらくなっている。鋼材流通市場については市中在庫に対する感度が高まってきた。特にサプライチェーン（供給網）が長く、非常時に保険的な意味で置かれる流通在庫が絞られていると変化点を指摘した。鉄鋼メーカーにも需要見合いでの生産が求められている。

※次回の会合予定

2020年1月28日(火)午後2時30分より茅場町「鉄鋼会館4階・日本鉄鋼連盟第一会議室」

以上